進路ニュース

第５号　　２０２３年９月１３日発行

～共創力　×　専門性～

○グローバル社会の進展に伴い、企業や大学で注目されている概念に**「共創」**があります。**「共創」**とは、専門的視点を持った人材が互いに知識を交換しながら、より高い次元でアイデアを創り上げることです。**「共創」**には、相手の意見やアイデアを理解するとともに自分の意見やアイデアを分かりやすく伝える能力も求められます。自分だけが目立つのではなく、相手と協力し、共に目標を達成する能力も必要となります。

「共創力」の４要素（「ＳＣＨＯＯ」より）

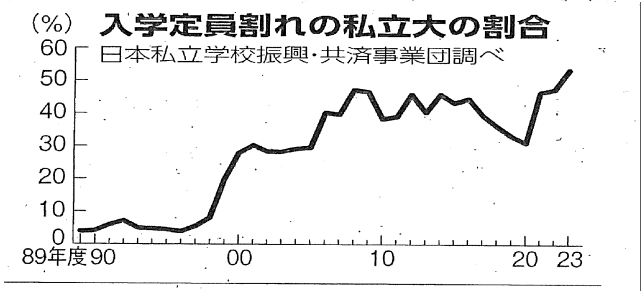
１：メンバーと信頼関係を構築する力
２：チーム内でビジョンを共有する力
３：他者の意見や価値観を受け入れるオープンマインド
４：新しいアイデアや解決策を生み出す創造力

学校祭の活動で**「共創」**につながるものを感じ、紹介しました。

○大学を取り巻く状況について（「福井新聞」・「学研・進学情報」より）

主な大学の申請と審査結果の概要

	申請	審査結果
有識者会議が現地視察 東北大 認定候補	国際化など6目標と達成の19戦略を提示	体系的な計画で戦略が明確、研究資金増額は戦略見直しを
有識者会議が現地視察 東京大	全学的教育研究組織を創設	変革に向けたスケール感やスピード感が不十分
有識者会議が現地視察 京都大	人材・研究環境に積極投資	変革への意志は評価、国際化は実社会の変化に対応を
名古屋大	高レベルの基礎研究や産学連携で世界水準に	研究力向上策に期待、研究拠点と既存部局の関係の整理必要
筑波大	国際性と多様性の日常化を徹底	各研究機関との連携強化のみでは不十分
九州大	脱炭素など3分野で変革、九州・沖縄の各大学と連携	地域全体の研究力向上を図り挑戦的、変革の学内浸透が不明確
大阪大	大阪版シリコンバレー目指す	野心的提案、研究拠点設置は全学展開が不明確



●志願者増減率が大きかった国公立大(2023年度)

	国立大	増減率	公立大	増減率
増加率が大きい大学	旭川医科大	186.8%	三条市立大	184.0%
	浜松医科大	186.8%	新見公立大	157.6%
	豊橋技術科学大	171.4%	山形県立保健医療大	155.6%
	宮城教育大	149.5%	福島県立医科大	147.2%
	室蘭工業大	140.5%	静岡県立農林環境専門職大	144.1%
	横浜国立大	129.7%	石川県立看護大	139.4%
	宮崎大	127.1%	青森公立大	134.6%
	山口大	126.7%	前橋工科大	133.1%
	北海道教育大	122.4%	宮崎県立看護大	126.0%
	名古屋工業大	120.9%	群馬県立県民健康科学大	124.6%
減少率が大きい大学	滋賀医科大	51.0%	新潟県立看護大	42.1%
	鳴門教育大	56.4%	敦賀市立看護大	47.4%
	北見工業大	57.7%	香川県立保健医療大	51.2%
	福井大	60.9%	福知山公立大	60.6%
	東京外国語大	72.1%	広島市立大	64.5%
	筑波技術大	72.7%	大分県立看護科学大	64.8%
	岡山大	72.8%	公立諏訪東京理科大	65.8%
	徳島大	73.5%	公立はこだて未来大	66.4%
	岐阜大	74.8%	長野県看護大	67.6%
	京都工芸繊維大	75.1%	沖縄県立芸術大	71.1%

・**国際卓越研究大学**・・・国が１０兆円規模の基金を活用し、世界最高の研究水準を目指す大学を支援する。申請があった大学から東北大が初めて候補となった。１人の研究者がテーマごとに院生などとユニットを形成し若手や中堅の研究者も野心的に挑戦できる体制に変更する点などが評価され、注目されている。

・**定員割れの私大**・・・定員割れした大学数が私大全体の５割を超えるのは１９８９年の調査開始以来初。定員充足率９９．５９％も過去最低。定員規模が少ない大学・地方大学の減少幅が大きい。１８歳人口の減少が大学を直撃し、大学再編の加速が予想される。

・**２４年度入試の展望**・・・コロナ禍の影響が薄れた２３年度入試では国公立大は共通テストの平均点アップで大都市圏の難関大を含めてチャレンジ志向が強まった。私立大では総合型・学校推薦型選抜を目指す層が増えた他、経済状況を反映して併願校数を減らす動きが目立った。２４年度は新課程移行の前年で、制度の変わり目への不安から安全志向は高まりそうだと言われているが、さまざまな要因が絡むので、個々の大学では注意が必要。前年度の反動により志願者の増減が大きかった大学は右上表の通り。

○**受験データの意味と活用**について（「蛍雪時代９月号」より）
受験を控えた３年生はもちろんだが、１、２年生も受験データの意味や活用の仕方について意識しておくと活動に深みが出て学習が楽しくなるはず。

①**合格最低点・平均点**・・・公表形態は大学によりさまざま。多くの大学の合格の目安は６～７割。直近２、３年の平均値を目標に設定する。国公立の２次対策の過去問演習等で活用しよう。

②**合格難易度**・・・合格者数と不合格者数がほぼ同数の得点帯がボーダー。科目数の違いなどで差が出るので単純比較はできない。入試科目や配点も加味して参考にしよう。

図2 国立大学(2次試験の配点ウエートが高いタイプ)**の「共通テスト得点率」と「合否の人数」の関係**

共通テスト：5教科7科目(500点)、2次試験：英語・数学・選択・面接(1500点)

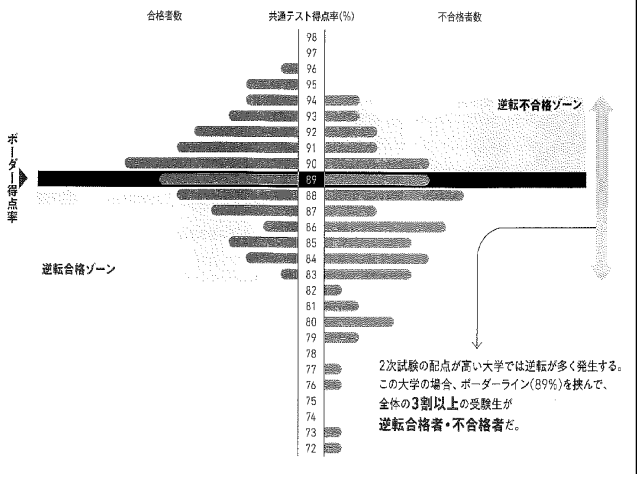
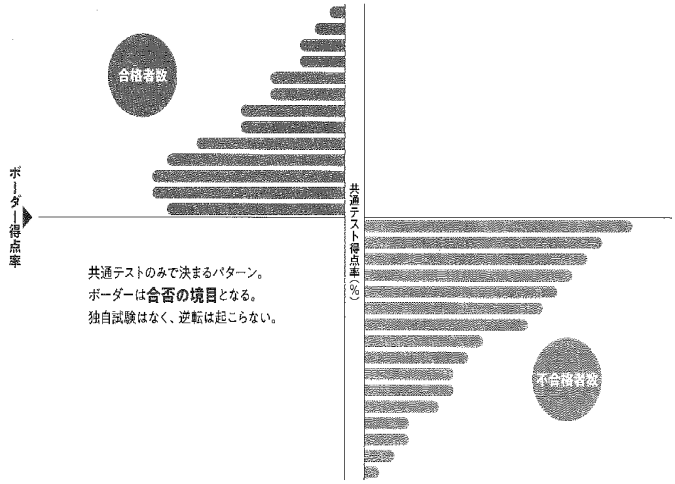


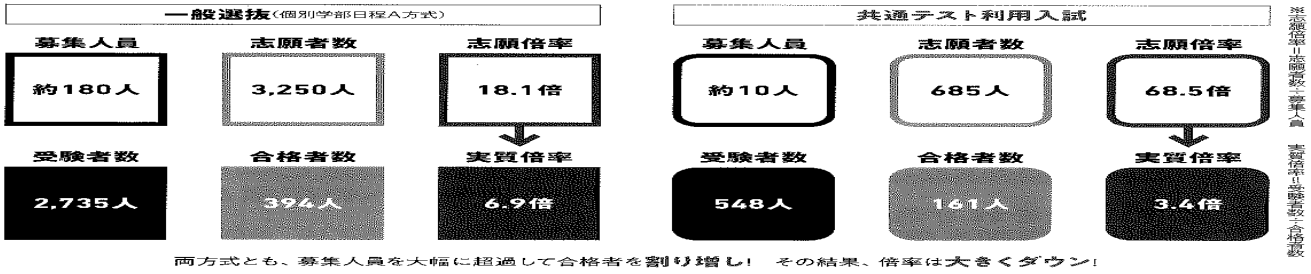
図3 私立大学の共通テスト利用入試(独自試験を課さないタイプ)**の「共通テスト得点率」と「合否の人数」の関係**



③**倍率**・・・志願倍率は出願段階の、実質倍率は合格発表後の情報である。国公立前期　の合格者数は毎年ほぼ一定なので実倍は志願者数の増減に左右される。国公立の中後期　や私大は実倍を参考にするのがよい。

＊**隔年現象**・・・実倍が１年おきにアップダウンを繰り返すことを言う。私大の場合は合格者数の増減も変動要因に加わり予想は難しい。

図4 青山学院大学 経済学部 経済学科の例(2023年入試)



④**入試科目・配点**・・・受験科目・科目間の配点、共通テストと２次の配点ウェートを要チェック。ウェートが高いものほど合否に与える影響は大。

○**これからの模試受験**・・・３年生は模試受験の際、**志望校の入試情報**を整理しよう。第１志望校や併願校の入試科目や出願期間、入試日、合格発表日も確認し、受験計画にもつなげよう。

○**「学習室利用状況」**について　　☆利用者数（１学期分）

学年	１年	２年	３年	合計
１学期	１３１	１５４	２２６	５１１

１学期分を集計しました。たくさんの活用がありましたが記名せずに活用している人がいるようです。次年度に向けて正確なデータが欲しいので、利用の際には利用者名簿への記名をお願いします。